

大阪・上清滝遺跡

かみきよたき



(大阪東北部)

- 1 所在地 大阪府四條畷市清滝
- 2 調査期間 一九八八年(昭63)一二月～一九九〇年三月
- 3 発掘機関 四條畷市教育委員会
- 4 調査担当者 野島 稔
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 平安時代末～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

上清滝遺跡は、生駒山系を横断する国道一六三号沿いの小集落と所々に旧清滝街道の名残りを見出す東西六〇〇m、南北一〇〇mの範囲に広がっている。一九

八八年から、建設省の交通量増加に対する国道の線形改良付替工事に先がけ、発

掘調査を実施した。その結果第二次調査(一九八八年)において木簡が出土した。

一 第二次調査

- (1) •「寿永三年」
- 「四至内券文」

(題籤軸)

遺跡のほぼ中央部に位置する小字名「塔ノ坊」とその周辺を対象として実施した。その結果、掘立柱建物をはじめ、石組井戸・素掘井戸・溝・落込み状遺構・旧河川等が検出された。木簡はこの旧河川の斜面に投棄された状態で発見された。
埋土中からは、木簡のほか、下駄・箸・漆器・金箔塗り光背・木製聖観音立像・人形等の木製品が非常に保存の良い状態で出土している。木製品以外の遺物は、瓦器碗・土師質皿・白磁・砥石・硯などがある。

二 第四次調査

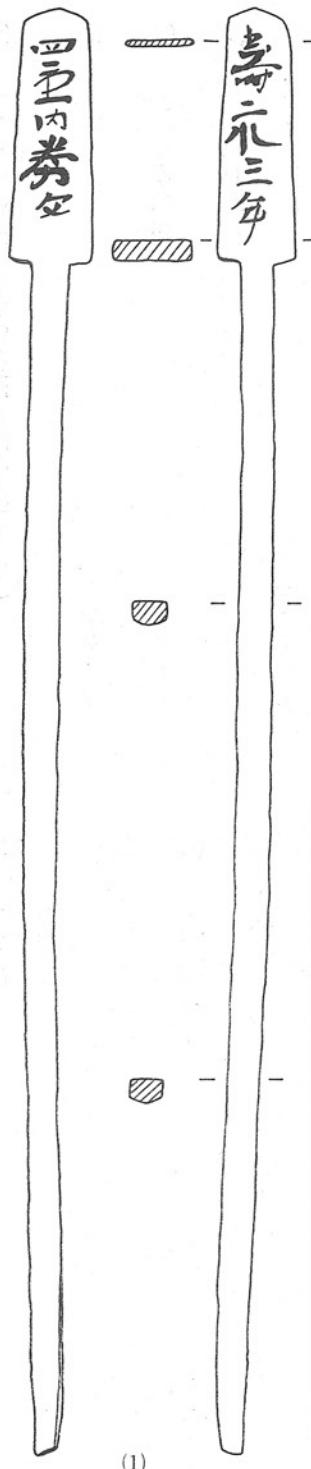
遺跡の西端に位置する小字名「籠池」と呼ばれている水田地で実施した。その結果、掘立柱建物、溝、東西約三〇m・南北約二二m(約六六〇m²)の池等が検出された。木簡二点は、池の下槽にあたる二号木樋の集水施設の四本柱のうち、西側の二本に、墨書面を内側にして木釘で打ち付けられた状態で出土した。池の埋土中から瓦器碗・土師質皿が出土している。

8 木簡の釦文・内容

一 第一次調査

1989年出土の木簡

(2)	「▽妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第1」十五 272×17×1 032	(11)	・「歩兵」
(3)	「常福方」 257×(25)×1 081	(12)	・「□」
(4)	「□せのたね」 103×22×3 051	(13)	「渥○」 (355)×(17)×6 081
(5)	・「▽汝聽觀音行善應」 「▽□□□□」 270×14×1 032	(14)	・「□□□□□」 (117)×13×2 059
(6)	・鶯□□ 念西方仏 出家請僧 慶喜四靜屬□□□可」 〔因カ〕 235×(13)×10 081	(15)	・「（文様）□□の彌 □諸 〔因カ〕 (160)×73×6 065
(7)	・「□□□□□」 □七□八□」 (60)×13×3 019	(16)	・「□□□□」 □□□□ 〔因カ〕 (150)×(18)×1 081
(8)	・「妙法蓮華經 「□□□」 196×22×5 011	(17)	「▽□□」 □□□□ 84×(43)×3 032
(9)	「○八月八日□□○」 32×17×5 061	二 第四次調査	
(10)	「王將」	(1) 「咄天罡○一一切□□□一切吉祥句罪惡□ 二不□○」 559×28×6 051	



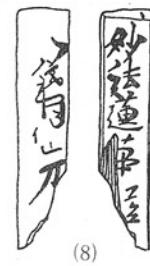
(1)

(15)

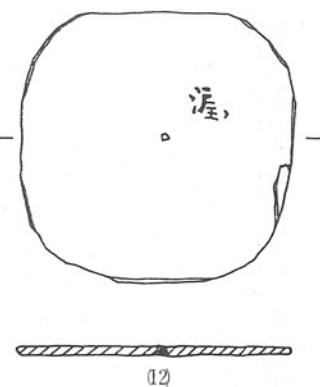
(村上 始・野島 稔)

(2) 嘴天正。一切□□□□□罪□一切□□
以□□□□□□□□○
551×27×6 051

第二次調査区で共伴する木製聖観音立像・光背・柿経等寺院関係遺物との関係は不明であるが、周辺の字名「觀音堂」「仁王堂」等の地域が今後の発掘調査対象地であることから、寺院関係遺構が検出されると推定される。また、現在、第二次調査区で木簡が出土した旧河川の続きを第五次調査として発掘中であり、木簡が出土する可能性がある。



(8)



1989年出土の木簡



(17)



(4)



(14)



(16)



(2)



(6)